



かけはし



文責：小倉



ネット社会に生きる子どもたち

～「心のアンケート」から考える～

今学校では、タブレット等のICT端末を活用した授業が日常的になってきました。学習の進め方も様変わりしています。子どもたちは1年生も含めて、上手にICT機器を活用しながら課題解決に取り組んでいます。この波は学校だけではないようです。12月に行った「心のアンケート」では、3年生以上の子どもたちの家庭でのネット生活について質問がありました。

「家庭に自由に使える情報通信機器（スマホ、PC、通信機能がついたゲーム等）を持ってていますか？」という問い合わせに、実際に80%の児童が持っていると回答しています。情報通信機器は、私たちが予想した以上に速いペースで子どもたちの生活に浸透してきています。

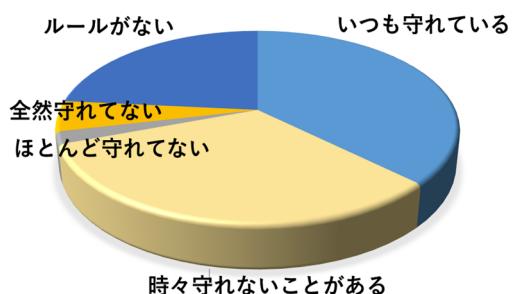
ただ、私たち大人世代が経験をしなかった社会だけに、思わぬ落とし穴もあるようです。「依存症問題」「個人情報の扱い」「情報の信憑性」「匿名性の悪用」等子どもたちは、便利さとともにこのようなネット社会の陰の部分ともつきあっていかなければなりません。成長過程にある子どもたちにとって、家庭でのルール作りや大人による制御（ペアレンタルコントロール）がとても大切になります。

ここで気になるデータがあります。「情報機器を使うときの決まり事（ルール）はありますか？」という問い合わせに対して、57人の人が「ルールはない」と回答しています。実際に3割近い子どもたちはルールの縛りがない中で情報機器を使用していることになります。これは、全国や県の平均よりかなり高い割合です。

また、小学生の通信機器の弊害で一番大きな課題となっているは、「ネット依存」という問題です。ネット使用がなかなかやめられず、結果として生活のリズムを崩したり、昼夜が逆転し、日常生活を送ることも困難となる事例があります。そこで「家庭で夜10時以降は使わないルールは守っていますか？」と質問したところ、下図のようになりました。「ほとんど守っていない」「全然守っていない」「ルールがない」人の合計が60人（28%）もあり、心配をしているところです。

また毎日3時間以上使用している児童が36人（16%）の生活リズムも心配です。

夜10時以降は、通信機器を使わないと
いうルールは守っていますか？



これを機会に、御家庭でもスマホやタブレット等の通信機器の使い方のルールと今のお子さんの活用状況についての確認をしていただければと思います。子どもたちがこのネット社会を主体的に生き抜くためにも、しばらくは私たち大人の伴走が必要だと感じています。

なお、不知火小学校ホームページには、情報モラル教育の資料として「家庭でのルール作りについて」「インターネットの書き込みについて」「ゲーム課金トラブル」「位置情報共有アプリ」等の資料を掲載しておりますので、御家庭で話題にされる際の参考にしてください。